



あいにくの雨模様となった「平成21年YOSAKOIソーラン祭り」。その会場で、鮮やかな黄色いジャンパーの上に透明なカッパを着たスタッフ達が、出場チームを誘導し、会場整備する姿を見ることができました。彼らは、株式会社太陽グループのボランティアチームです。

北海道に45店舗を展開する太陽グループは、「地域と共に」を旨とする様々な事業を展開しています。地方都市からの依頼による駅前への複合娯楽施設の建設、地元と一体となったワイン用葡萄園の経営、北海道の地域づくり活動を応援する財団の運営、店内託児施設から発展して生まれた

保育園などです。また、各種ボランティア活動に加する従業員のために、活動の提起や募集、オリエンテーションなどを行うための団体を持っています。それが「NPO法人太陽グループボランティアチーム」です。このチームは企業内NPO法人としては北海道で初めて認定を受けました。伝統的に従業員によるボランティア活動が活発な太陽グループですが、それがより広範囲に、より大規模になっていくにつれて、組織的な運営が必要となり設立され、平成22年には10周年を迎えます。

チームの活動は、養護施設との交流、スポーツ・文化事業の運営サポート、グループ内事業のお手伝い等々多岐に渡ります。養護施設との交流は太陽グループのボランティア活動の原点で、十数年前、パーラー店舗のお客様に作った甘酒が大量に余ってしまい、それを養護施設で振舞

いきました。その時に、もらった笑顔と喜びが今の活動につながっているのです。現在は、雪中運動会、子供の日の訪問、花火大会への招待、クリスマスへの訪問や老人ホームへ機材を持ち込んだりのパチンコ大会など、毎月のように交流が行われています。

少年野球の活動は、イベントサポートとしては、「全道少年軟式野球大会」が代表的です。少年野球チームが少ない困っていた少年野球チーム達のために造った三面の少年野球専用球場は、「ぼくらの甲子園」と呼ばれ、全道の少年野球選手達に



老人ホームの人たちを呼んで、パチンコを楽しんでもらう。スタッフがついてアドバイス

少年野球のために球場まで

イベントサポートとしては、「全道少年軟式野球大会」が代表的です。



「全道少年軟式野球大会」のサポートで、朝早くからスタッフは大忙し

愛され、シーズン中は連日試合が行われます。スタッフは早朝から準備して、ポールボーイ、スコアボード、ウグイス嬢などを務めます。その他、車椅子バスケット、子供音楽コンクールといった道内の様々なイベントで欠かせない存在となっています。グループ内事業のサポートとしては、歌志内市に持つ葡萄園での季節毎の作業があります。この時は保育園からも園児達がやって来て、共に楽しく汗を流します。また岩見沢市にあるキノコ農場でも収穫のお手伝いを行っています。

株式会社太陽グループの東原俊郎社長は、「自分のために働け」という経営理念の持ち主で、その徹底振りは「会社のために働くな！」という本

も著すほど。その名の通りボランティア（自発的）に、取り組む社員達はしっかりと社長の考えを受けとめています。

球場が少なく困っていた少年野球チーム達のために造った三面の少年野球専用球場は、「ぼくらの甲子園」と呼ばれ、全道の少年野球選手達に